

◇ 巻頭言 ◇

学生の図書離れが言われて久しいが、他方、本屋の店先を見ると、文庫本をはじめ週刊誌・月刊誌など雑誌類が、あふれんばかりに並んでいる。紙の消費量が一国の文化水準の高さを表わすとすれば、日本文化はまさに隆盛の一途をたどっていると言えよう。

しかし、問題は出版された図書類の内容であって、店頭にうず高く積上げられたこれらの印刷物は、いわゆる本格派の読書とは縁遠い、娯楽的な読み物か、又は、実用書が中心なのである。

それらは、それなりに、役に立ってはいるのだが、学生諸君が、それらの娯楽書。実用書の奔流に押流されて、本格的な読書という目的地を見失っているのではないかと心配なのである。新入生諸君のなかには、学習参考書以外の本格的な読書経験の乏しい者もいるだろう。

それゆえ、図書委員会は、本格的な読書という原点に立って、校長先生はじめ諸先生方に、学生向図書を推薦していただいた。学生諸君が、夏休みという十分に時間のとれる時(期間)を利用して、ここに載せられている書物の数々に接することによって、本格的な読書遍歴への第一歩を、力強く踏み出して欲しいと願っている。

図書館長 芋川平一

目 次

巻頭言	芋川平一	1	私はこんな本を読んだ
教官推薦図書特集			「友情」を読んで
学 校 長		2	名作「友情」に感動して
一 般 教 科		2	乱読・濫読
機 械 工 学 科		4	大魔王作戦
電 気 工 学 科		5	利用者統計
工 業 化 学 科		7	57年度春休み利用状況
土 木 工 学 科		9	新着図書目録
			今年度の顔振れ

若者よ良書を選べ

夏休み読書のしるべ

*** はじめに ***

いよいよ夏休みです。学生諸君等の胸中は、今や夏休みへの期待でいっぱいにくらんでいることでしょう。日頃の猛勉強から開放されての50日間は、諸君等にとっては、まさに浩然の気を養う最良の時となりましょう。

ところで、ここに一つの統計があります。「1日平均帯出者数30人、帯出冊数41冊」これは、本校図書館で実施している利用統計が明らかにした、学生の図書館利用状況を示す数字です。この数字で見ますと、諸君等の図書館利用率は、800人の全学生中わずかに5.2%にしか達していないことを物語っているわけです。これでは、国立高専に学ぶ諸君等としてもいささか気恥かしさを覚えはしないでしょうか。

そこで、今回、図書委員会では、学生諸君に読書の指針を提供する意味で、「教官推薦図書」の企画を立ててみました。各先生方から、諸君等に読ませたい本・面白そうな本を御推薦いただいたわけです。

長い夏休み中の諸君等の読書計画立案の一助ともなれば、この企画も生かされることになりましょう。この中から、二冊でも、一冊でも読んでみて下さい。

◎ 学校長 柏木 健三郎

夏休みのおすすめ品5点

- アラビアのロレンス (岩波新書)
読み出したらやめられない。
- ジャン クリストフ(全8巻) 岩波文庫
ぜひ一読を。
- ルワンダ中央銀行総裁日記 (中公新書)
日本人総裁と発展途上国の苦悩
- 詩への架橋 (岩波新書)
詩と文学の理解のために
- パリは燃えているか 上・下 (ハヤカワ文庫)
国と戦争と人間のドラマ

◎ 一般教科 山崎 道雄

表現と理解の構造

名取 堯 修文館

「夏密柑ひとつ買って持ちてある思いはかなく汽車動くなり」文芸的分野の表現活動とその理解のはたらきに、眼を開かせてくれる。今は絶版だが、古本屋を漁ってみる経験もたまにはよかろうと思ってあげてみた。

理科系の作文技術

木下 是雄 中公新書

卒研のアブストラクトの添削をよく頼まれるが、かんじんの日本語の方がすっきりと書けていることは少ない。前の方に文芸的表現を扱ったものをあげたので、それと対比する意味で新しいものから、理系の人のための文章読本をあげた。

◎ 一般教科 馬場 寛

Nineteen Eighty-Four (1948)

イギリス人作家、George Orwell (ジョージ・オーウェル) (1903 ~ 1950) が1948年に36年後(来年)の世界を想定して書いた未来小説。世界は三つの巨大国に分割され、強力な国家権力の上に成り立つ全体主義の社会の中で個人の自由と人間性の問題をとりあげている。この作品は1948年に完成、題名は48を逆にしたもの。

Animal Farm (動物農場)

『1984』とともにオーウェルの代表的作品。革命後のソビエト、とくにスターリニズムのソビエトを動物の世界に移し変え、風刺した小説。オーウェルの作品は簡潔で歯切れのよい英文

で書かれ、「語り」のうまさから面白く読める。高専3年生（頑張れば2年生）の英語力で、原書で読める。ペンギン文庫のペーパーバックで手軽に求められる。

📖 一般教科 芋川平一

モラトリアム人間の時代

小此木啓吾著 中公文庫

社会人として必要な年齢相応の「決断」を先にのぼそうとする最近の若者の心理を分析した評判の書。

きけわだつみのこえ

日本戦没学生の手記

岩波文庫(又は、カップ・ブックス)

1930年代(あのいまわしい第二次世界大戦の前夜)に似てきたといわれる今日、学業なかなばに戦場に駆りだされた学生たちの手記を、他人事と思わずに読んで欲しい。

📖 一般教科 鈴木澄夫

ふしぎな数学

ノースロップ著 みすず書房

いろいろなパラドックスを集めたものであるが、無限数列の和、すなわち無限級数の値をどう定義するかの問題を含んでいる。

いろいろな曲線と曲面

佐藤伊助著 裳華房

最近、わかり易く、懇切丁寧に書かれた数学解説書が多く出版されているが、この書もそのうちの一冊である。

サイバネティックスはいかにして生れたか

ノーバート・ウィナー著 みすず書房

コントロール(制御)の技術と学理を表わす言葉として、「サイバネティックス」という言葉を始めて使った数学者の自伝である。この「且つての天才」のいろいろの分野における人間関係等も面白く、充実した内容であることから、自伝そのものとしても優れている。

📖 一般教科 渡辺洋太郎

罪と罰

ドストエフスキー著

社会的に存在価値がないと思う老婆を殺害した青年が、自己弁護しながらも不安を感じ、娼婦との出会いに本当の安らぎを見出すに至るまでの人間存在の深淵を描いているスリルと感動に満ちた名作である。

後世への最大遺物

内村鑑三著

内村の著作はどれも読者の魂に迫る力をもつが、中でもこの作品は五話の夏期連続講演だけに、多数の若者を発奮させてきた最も大衆的なものである。内村の他の著作への入門書としても最適である。

📖 一般教科 中村好一

わが青春に悔あり

遠藤周作著 角川文庫

抱腹絶倒して、その笑いを止めることの出来ない本である。学生諸氏は、ゆめこの書をバス電車等の中で開くこと勿れ!

夏目漱石(上・中・下)

森田草平著 講談社学術文庫

漱石について書かれた評伝は多い。然し、人間漱石の体臭を生々しく伝えているという点では、この書に優るものは少ないであろう。気楽に読めて、然も、読むに従って漱石の呼吸を膚で感じる事が出来る本である。

📖 一般教科 桜田芳樹

私の頭陀袋(禅坊主が経巻お布施をいれる袋)には論語の豆本と、旧約聖書1冊、般若心経1枚が入っている。祝詞(のりと)が入っていないのは豆本がないからで、いまに自分で作って入れるつもりである。これらはいずれも人倫の基底を作った書物だから人と生れては必読書である。といっても、こだわり・こだわりを捨ててかからねばうわつらを撫でるだけで味読はできない。これらには人はいかに生くべきか、また、死すべきか、学び方・遊び方、人のことは何でもかかっている。私が必読書だと言ったことを覚えておいて、読む気になった時に読んでほしい。

さて、夏休みの読書の楽しみだが、朱子は「北向きの部屋で寝転んで読むと伏羲時代(神話時代)の人になったようだ」とその「読書四時之楽」で言っている。この語の典故は淵明にあって、それを読書の楽しみと読み解いた朱子も道学一点張りではない豊かな学究生活をもった人である。朱子程謹厳な人が北窓下に寝ころんで義皇上の夢を結べといっているのだから、遠慮なく青ゴザにすがしといねよ、気持ちのいいものです。

閑話休題(なにはさておき)夏休みにすすめた本は、白川静著「漢字百話」中公新書と藪内清著「中国の数学」岩波新書である。「漢字百話」は漢字の語源を教えてくれるだけの書物ではない。

亀甲獣骨文字による古代史の発掘作業と思えばよい。この書には古代人の物の考え方が解りやすく説明されていて、読み終われば一級の考古学者・民俗学者・文化人類学者と同じ考え方ができるようになる。私がうけあうから読むといい。藪内氏のもは、今では手に入りにくいそうであるが古本屋などで見かけたら是非買いなさい。中国数学史が誰にも解るようにやさしく書かれている。読み終れば微積までできるようになっている。これも私がうけあいます。読みたい人は私のところへきて、マスターペーパーから更紙に印刷すればいいと思います。では良い夏休みを送って下さい。

勿論素晴らしい昼寝の夢を結び、中国古代人を友として下さい。再見。

㊦ 機械工学科 窪田 暲 二

エントロピー発想の生かし方

高辻正基著 ごま書房

エントロピーとは何か

堀淳一著 講談社

エントロピーの法則

ジェレミー・リフキン著 (竹内均訳)

祥伝社

「エントロピー」は、熱力学上だけでなく、最近 今日のように、物心共々の荒廃を必然的に伴う変化の速度の激しい高度産業社会における社会事象の説明に用いられています。

自然科学と社会科学で同じ概念が使われることに興味と面白さを味うことと思えますし、生き方・考え方の巾を拡げてくれるものと思えます。また、これを機会に「熱力学」への興味の一助になるかも知れないことを期待して一読をすすめます。

㊦ 機械工学科 佐藤 顕 二

広中平祐学問の発見

広中平祐著 佼成出版社

世界的数学者が自分の人生を赤裸々に語り、自分の人生をいかに創造していくか、著者の人生論・学問論が述べられ、我々が生きていく上での指針を与えてくれるであろう。

心眼一エサしか視えないカエル

森政弘著 佼成出版社

著者はロボットの研究で世界的に有名な東京工業大学制御工学科の教授であり、仏教にも造詣が深い。「生きもの」と「機械」の動きを「仏教」の視点で結びつけた興味に満ちたエッセイであり、視野を広げるための一助となるで

あろう。

㊦ 機械工学科 中山 淳 一

アメリカ人—その文化と人間形成—

加藤秀俊著 講談社

「アメリカ人」は多くの問題をかかえているが、その中のいくつもの点で、「アメリカ人」の問題は我々全人類に普遍的な問題である、と著者は言っている。日本人である自分自身を考える意味でも一読をすすめたい。

イスラムからの発想

大島直政著 講談社

著者は「我々は、ベンダサンが『日本人とゴダヤ人』(角川文庫、300円)で論じたように、世界的に見て相当に変わった存在である<日本教徒>だと思い知らされた」と言っている。是非一読を。

㊦ 機械工学科 大和田 国 夫

手記 生きて祖国へ

満洲 篇：1 流亡の民 2 満洲よさよなら

シベリア 篇：3 シベリヤの悪夢

4 望郷の叫び

朝鮮 篇：5 死の三十八度線

樺太 篇：6 悲憤の樺太

引揚体験集編集委員会 図書刊行会

平和に酔いしれ、物心両面に恵まれ過ぎて、ややもすると、学生の本分を疎かにしようとしている諸君達に、是非一度は読んでもらいたく、すすめる本です。

昭和20年8月9日、突如としてソ連が参戦し、満洲・北朝鮮・樺太に侵攻して来たため、一般邦人が死の逃避行を開始し、太陽に身をやかれ雨にたたかれ、食料難に苦しみながら、山野をさまよい、暴行と略奪の恐怖におののいた人々と、満洲・北朝鮮・樺太で敗戦と同時に捕虜となり、あの酷寒の地、シベリアでの飢餓と強制労働に辛うじて生き抜いた人達の手記です。祖国の地を踏めず、異郷の土となった幾十万の同胞や、若くして散華した250万の兵士の尊い犠牲者があって、今日の日本があることを忘れないでほしいのです。



⊕ 機械工学科 佐藤 憲 男

強さとかたち

ア・エリ・エゴーフ著 (豊田博慈訳)
東京図書

人間がもの(道具から現在の建築物・機械類)を作る過程で、経済的でこれられないようにさまざまな工夫をどのように行ってきたか、また将来どのような発展をとげるかについてわかりやすく、興味ある事例にもとづいて解説している。機械系以外の人達にも読んでいただきたい本である。

⊕ 機械工学科 渡辺 敏 夫

イラン人の心

岡田恵美子著 日本放送出版協会

人が風俗・習慣の違う国で生活するとどんな驚きとまどいをするであろうか?本書には、著者がイランへ留学した時のようすが、興味深く感動的に書かれています。

くすりの小事典

坂本正明著 朝日新聞社

我々が日常使う薬には色々ある。しかしその効き目が表われるしくみや副作用については、ほとんど知り得る機会がない。本書では、我々の身近にある薬や、専門的な薬についてやさしく解説してある。

⊕ 機械工学科 菅野 喜 之

キッテル 熱物理学

キッテル著 (山下次郎・福地充訳)
丸 普

エントロピーの法則(21世紀文明観の基礎)

ジェレミー・リフキン著 (竹内均訳)
祥伝社

エントロピーという概念の応用は、今後理工学分野を越えて広がっていくと思われます。そこで、エントロピーを学習する書と、地球のエネルギー問題について述べた書を紹介し

⊕ 電気工学科 大 沢 信 義

知的生活の方法

渡部昇一著 講談社

(続) 知的生活の方法

渡部昇一著 講談社

本を読んでほんとうにおもしろかったら、その感じを大切にする。そして漱石などの古典を読んで、その感じがでたら自分自身のために祝盃を上げればよい。それは明日の知的向上を示すものだから。

独 創 力

糸川英夫著

天才とは「階段を上るところを人目にかくした人を言う」とはアメリカの行動科学の権威B.F.スキナーである。逆に階段をコツコツと少しづつ上るところを見せると「努力家」と人は言う。……示唆に富んだおもしろい本。

新産業革命

日本経済新聞社

技術強国、日本の戦略

森谷正規著 P H I 研究所

エレクトロニクス、バイオテクノロジー、新素材などを中心とする先端技術がいま新しい産業革命を引き起している。これらの先端技術が極めて近い将来我々人類社会にどのような影響を及ぼすか技術者として関心しなければならない。

⊕ 電気工学科 渡 辺 喜 郎

読書と人生

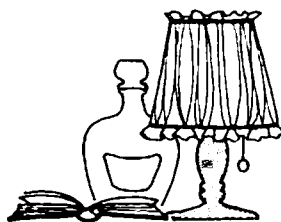
三木清著 新潮社

情報化時代といわれる今日において、良書を選択して熟読することは非常に大切であるが、この本はこれから読書を希望する人は勿論、現在読書を続けている人にとっても、選書法および読書法について、色々有益なアドバイスを与えてくれ、文章を読んで居る間にも著者の深い思索の跡が感じられるような本であると思う。

人間の条件

五味川純平著 三一書房

戦争を体験していない学生諸君は勿論であるが、すべての世代の人々に戦争の真実を伝え、人間が戦争という極限の状態に置かれた場合の非人間性、戦争の悲惨さ・空しさを教え、ひいてはすべての人々に生命の尊さと平和の重要さを考えさせるような真に味読に値する本である。



電気学会大学講座 物性論

(第二次改訂版) 電気学会

物性論とは、物理学および化学のほとんど全分野に亘って物質の性質および物質間に起こる諸現象を理論的に取り扱かう学問である。これは歴史的に大別すると、2つの考え方に沿って発展している。

1つは、巨視的(現象論的)な方法であり、熱力学がその代表的な学問体系で、体積・圧力・温度・電圧・電流などの物理量間の関係を物質の構成単位(原子・分子)に関わりなく解明しようとする立場である。

もう1つは、微視的(原子論的)なアプローチであり、物質の性質をそれを構成する微粒子(原子・分子・電子・イオンなど)の挙動並びにそれらの相互作用の反映であるとして解明しようとする立場である。

これら2つの立場を関係づけるものが統計力学である。

以上の様な広い観点に立って、物理的性質のみならず、化学的反応性についても、統計力学量子力学の概念や成果を取り入れて解説しているので、電気工学科の学生だけでなく、化学・機械・土木系の学生諸君にも広く薦めたい。

サイバネティクス入門 科学普及新書

ベ・ヴィルネル他共著(益子正教訳)

東京図書

電子計算機の小型化は、私達と電子計算機との関わり合いを益々密接にしている。

本校にもミニコンをはじめ、相当数のパソコンが導入・設置されている。電子計算機を理解し、それに親しむにはパソコンの利用は最も近道であろう。ただ、ややもするとパソコンの利用は、それだけで終りがちである。ただ、単に娯楽利用だけに終らせないためには、基礎学力の涵養こそ大切である。その努力がなければ、その後の発展・飛躍は望むべくもない。常に、数学・物理・化学・専門工学の学力をつけ、下地の蓄積を計ることこそ肝要である。その一環として「サイバネティクス入門」の愛読を薦めたい。特に、近年コンピュータ制御が盛んに行われているが、これらの知識が発想の転換に非常に役立つものと思われる。

叱り叱られるの記

後藤清一著 日本実業出版社

松下電器創業当時、見習工として入社、20年後乞われて三洋電機創業に加わり、後に同社副社長に就いた著者の自伝。「叱り叱られることの本当の大切さがわかる本」かつて、私が上司に奨められた本である。

幻のレーダー・ウルツブルグ

津田清一著 CQ出版社

わが国におけるレーダー開発の経緯、当時の国際事情、および初期のレーダの構造などに関心を惹かれた。

プログラムの読み方 情報科学一3

森口繁一他共著 岩波講座

本書は次の構成から成る。

- 第1章 初級言語 - BASIC
- 第2章 上級言語 - PASCAL
- 第3章 実用言語 - FORTRAN, PL/I

特徴としては例題を多く取り入れ、しかもやさしい問題から難解なものへと書かれており、各言語を理解するのにふさわしい著書である。

ICの話—トランジスタから超LSIまで—

垂井康夫著 日本放送出版協会

本書はICやLSIの動作を基本的なところから解説し、その技術の現状と将来性について書かれている。

各章は以下のとおり

- 第1章 半導体の動作
- 第2章 コンピューターでの演算において必要な機能
- 第3章 Tr と IC の発展過程
- ⋮
- 第6章 IC をとりまく周辺技術、社会へのインパクト



⑧ 工業化学科 金田 誠

禅 「現代に生きるもの」

紀井一義著 日本放送出版協会

セルフコントロールの医学

池見西二郎著 日本放送出版協会

⑧ 工業化学科 小磯 武文

チャレンジ・オブ・ケミストリー

PHILIP A. HERRIGAN 著

(倉石典他訳) 広川書店

原著者はアメリカ・南コネチカット州立大学の教授である。著者はこの本のいくつかの章で化学の基礎を理解させ、化学者の活動や化学研究の機能を述べ、さらに人類に密接な関係のあるいくつかの問題への化学原理の適用について述べ、理解させるように努めている。化学嫌いの人でも、この本を読んで化学に魅力を感じるようになることをこの著者は希望している。

ケミカル・エンジニア — その仕事と生活 —

化学工学協会編 東京化学同人

物理学と数学と同程度あるいはそれ以上に化学の知識をそなえた技術者がケミカル・エンジニアである。もっとよい品質で、もっと役に立つものを作り出すことはできないであろうか。もっと安く、もっと安全に有害な廃棄物を出さずに生産するにはどうしたらよいただろうか。資源を最も有効に利用する道はなにか。こうした目標に向かってたゆまぬ活動を続けているのがケミカル・エンジニアである。一度読んでみて自分の目標を確かなものにしてほしい工化学学生向きの本である。

⑧ 工業化学科 伊藤 宏

気くばりのすすめ

鈴木健二著 講談社

1～2ヶ月前のベストセラー。

週間誌を読むごとく、かるい気持ちで読みともし、母親のごとを聞くごとく、上のそらにて読みとおす。

読後、「つまらない」と思う人は、気くばりの実践者か気くばり論をすでに履修している人。「うるさい」と思う人は、2～3特に気になるところがある人。自己の心理を分析する必要あり。「なるほど」と思う人は参考にして、周囲との人間関係に応用すべし。

福翁自伝 福沢諭吉 全集第7巻

福沢諭吉著 岩波書店、又は

平凡社(「世界教養全集」28)

福沢諭吉晩年の著で、彼の書物としては読みやすい。

明治維新前後の社会を、彼独特の観察力と洞察力で記述し、それに対する自分の心情をすなおに表現している。特にアメリカの印象記述は、異文化に接した人間の新鮮な感動が生き生きと書かれている。今なお、人間がシルクロード、ヒマラヤにかり立てられ、新しい実験事象を求めてさまよう研究徒の心情と共通のものが感じとれ、ほほえましくも思われる。

⑧ 工業化学科 伊藤 正之

崩れゆく日本をどう救うか

松下幸之助著 PHP 研究所

昭和10年基準で、賃金・物価は千数百倍、国費は1万3千倍にもなる。抜本的対策を断行しなければ、日本は生きづまる。この大手術の方法および新国土創成論を提言している。

日本国勢図会

矢野一郎監修 1983年版 国勢社

1927年(昭和2年)より毎年発行されている。何科の学生でも、常識として知らなければならぬ最新の統計指標および説明が述べてある。座右におき疑問の都度、読むことは知識を豊富にし、有益である。

⑧ 工業化学科 高橋 辰男

工学基礎 無機化学

斉藤一夫著 培風館

自然科学のいろいろなコース、特に工学の基礎課程を学ぶ者に、無機化学を中心に関連ある化学の基礎を幅広く理解させることを目標として書かれている。取りあげた化合物の種類やとりあげ方は従来の教科書とかなり異なり、化学系の学生はもとより機械系・電気系および土木系の学生にも比較的親しみやすいように内容が配列されている。

化学総説 イオンと溶媒

日本化学会編 東京大学出版会

溶液に関する諸問題を広範囲に取り扱った専門書。人体の約65%を占め、地球表面の $\frac{2}{3}$ を覆っている水に代表される溶液の問題を、特にイオンと溶媒の両面から、そして化学の基礎的知見から身近な課題へととらえられている。さらに、溶質と溶媒の熱力学と統計力学による結果

を分子論的に集約し、錯体化学の知見と結びつけ、得られた成果を地球化学や生命化学などに適用しようと試みている。

㊦ 工業化学科 引地 宏

いきいきと生きよ

手塚富雄著 講談社

新鮮な心で現実を受けとめ、理想を持って対処したゲーテの知意のエキスを解り易く伝え、一つ一つの言葉に手ごたえがある。「君たちは君たちの時代において生産的に生きよ」また、「与えられた今日の日を君自身の今日と呼ぶように生きてゆけ」と問いかけて行く。

若さに贈る

松下幸之助著 講談社

青春時代の貴重な日々をいかに充実して生きるか。信念と希望と勇気を持って、創意に満ちた生活を送るか。著者の青少年期に体験したことをもとに、日本の将来を築いて行く若者に贈ることばとして問い掛けている。

㊦ 工業化学科 大隈 信行

実践論・矛盾論

大月書店

今世紀最大の巨人、毛沢東の哲学的著書です。哲学書と言っても、これは実際の革命闘争の最中に、中国人民を指導してゆくために書かれたものですから、短い論文で簡潔にわかりやすく書かれています。特に実践論で「認識は実践に始まり、実践を通じて理論的認識に達し、再び実践へ帰ってゆかなければならない」ことを強調しているのが印象に残っています。

総合雑誌

昼休み時間や放課後などのヒマな時間ができたときに、閲覧室においてある中央公論や文芸春秋などの総合雑誌をめくって、今話題になっているテーマ、あるいは興味を持ってそうな表題の論文を読んでみて下さい。世間一般の常識論や短絡的善悪論あるいは建前論とは違った他の面からの物の見方、もっと掘下げた考え方、あるいは本音の論理をおしえてくれることがよくあります。

㊦ 工業化学科 井上 和人

危険物取扱者読本

国家試験対策部編 日東書院

化学で取扱う試薬・薬品類はほとんど消防法

ピブリア 50

で定める危険物である。危険物取扱者試験には下記の三部門から出題されるが、これからもこの試験は資格を取得するだけでなく、化学の一般的な学習と深く関わり合っていることがわかる。危険物は第1類から第6類までに分類

1. 基礎物理学と基礎化学
2. 危険物の性質およびその取扱法
3. 危険物の関係法令

されており、甲種危険物取扱者はこれらのすべての危険物を乙種はこのうち一類について取扱い又は立会いすることができる。石油販売業や給油所関係を中心に受験者の多い乙種第4類で取扱い可能な物質群は以下に示すようであり、これらは化学実験室で常用するも

- ① エーテル・二硫化炭素・アセトアルデヒド等の特殊引火物
- ② アセトン・ガソリン・ベンゼン等の第1石油類
- ③ 酢酸メチル・酢酸エチル等の酢酸エステル類
- ④ ギ酸メチル・ギ酸エチル等のギ酸エステル類
- ⑤ メチルエチルケトン
- ⑥ メタノール等のアルコール類
- ⑦ ピリジン
- ⑧ クロロベンゼン
- ⑨ ギ酸・酢酸・スチレン・キシレン・灯油・軽油等の第2石油類
- ⑩ アニリン・ニトロベンゼン・重油等の第3石油類
- ⑪ 潤滑油・可塑剤等の第4石油類
- ⑫ 動植物油
- ⑬ 塗料・印刷インク等のその他の危険物

のが多く、授業にも頻繁にでてくる物質である。したがって乙4に合格したものは、本学の有機化学に優をとる実力をまचाがいなくつけたことになる。今年2回目の試験は下記の通りでありますので、ここに推薦した本で準備すれば合格できるのでふるって応募して下さい。なお、応募用紙は最寄りの消防署にあります。

受付期間：9月13日～9月30日

㊦ 工業化学科 大沢 英一

解析概論

高木貞治著

現代の化学は数学的知識を不可欠なものとしている。本書を夏休みにじっくりと読めば(多分夏休みでは読み切れないので残りは読書の秋に読もう)数学的素養専門科目の理解を深めるのに役立つであろう。

風来先生

白川渥著

勉強疲れ・読書疲れのときに最適な小説である。

☉ 工業化学科 小林 靖 明

ケムス化学・新しいケムス化学

自然科学の中の重要な一部門である化学について実験を通して理解出来るようにくわしく書かれているので、全科の1～2年生に必読させたい。

エレクトロニクス 産業・社会を変える

近年、エレクトロニクス化に伴う急速な技術革新が進んでいるが、産業・社会・経済・行政・教育などあらゆる分野において、どのように利用されているかをわかりやすく解説している。

☉ 工業化学科 青柳 克 弘

ほしいものだけ作る化学

野崎一編著 裳華房

ほしいものだけを作り出し、まちがっても他人に迷惑はかけないこと。それが有機合成をやるものの信条でなくてはならない。そういう著者の信念のもとに書かれた、すばらしい有機合成化学入門書である。

旅 人 一湯川秀樹自伝一

湯川秀樹著 角川文庫

湯川氏の業績ほどにはその人を知る者は少ない。この本は、湯川博士自ら綴る生い立ちの記である。

氾 蓋

伊藤整著 新潮文庫

昭和33年当時ベストセラーになった問題作である。高分子学の研究を行う主人公の生涯を通して、学問・地位・金銭・家庭生活・恋愛・性欲などの各方面から相互影響を描いて、現代人の全貌を浮き上らせた、画期的な小説である。



☉ 土木工学科 志賀 宣 郎

土木の学生には入学当初から、土木にかかわりのある小説の類をすすめて来ているが、読書というもの、仲々に習慣とはなりきれないものである。今回視点を変えて手に入りやすい文庫本にしほり、安価な文庫本なら各人の本棚を飾れるのではないかという期待から選んで見ることとした。その結果については休み前には配布出来ると思う。この中で他科の学生にも十分読み応えのあるもの2冊ほど上げて見よう。

後世への最大遺物外

内村鑑三著 岩波文庫

「……この美しい地球、…国、楽しい社会、…育ててくれた山、河、これらに私は何も遺さずに死んでしまいたくない……」このような言葉にふれるだけで読む価値のある本である。

ファウスト 第2部

ゲーテ著 新潮文庫

ゲーテは亡くなる1年前に、この第2部第4幕以下を書き始める。そして一度この原稿を封印する。死の2ヶ月前、封印を破って息子の嫁と一緒に読んだという。この場面は埋立・大運河・堤防工事などであり、それ等を見わたす望楼を建てるため、追い出される老夫婦が死ぬという事件が起きる。大文豪の最後の労作が現代に生きているわけである。

以上この2冊の定価150円と400円である。

☉ 土木工学科 佐藤 恭 輔

敦 煌

井山靖著

西域を舞台にしたフィクション小説であるが昭和40年頃時点でのシルクロードに関する資料がふんだんに採り入れられている。

ながい坂

山本周五郎著

江戸時代、ある小藩における青年武士が主人公である。

☉ 土木工学科 土居 威 男

独学のすすめ

加藤秀俊著 文春文庫

学校に行かなければ勉強できない、などという考えはつい最近のもので、「独学」こそ学問の正道である。人間が勉強しようとするとき、頼りになるのは自分以外にない。「独学」とは、主体的に学ぼうとする姿勢である。どんな立派

な学校に入ろうとそれがなければ意味がない。かんがえようによっては、学校とは「独学」で勉強することのできる人々を収容する場所である。という痛烈な標題の小論から始めて、意欲ある人生を送るために考えるべきことが充満している。

数学の影絵

吉田洋一著 河出文庫

遊び時間の発想

織田・松田著 日本経済新聞社

前者はエッセイスト・クラブ賞を受賞された数学者の、後者は文科系2氏の対談形式の知的好奇心をくすぐる発想の面白さを楽しめる格好の銷夏読物であることを保証する。

男の博物誌

青木雨彦著 講談社文庫

就職に際し、会社は選んでも上司は選べない。サラリーマンの哀感を仕事のことから夜の一杯まで語りつくして妙。就職をひかえた5年生諸君に一読をすすめる。

土木工学科 官野一彦

私は週に数回ヤマニ書店に行って、専門書その他の本を見て来ますが、高専の学生に出会った例がない。この事実は何を意味するのでありましょうか。誠に残念です。この度私がヤマニ書店に行って読んで見たいと思って購入しました2冊について書評を書いて、意欲のある学生に読んでほしいと思います。

「スプライン関数とその応用」スプライン関数などという名前は耳なれない言葉ですが、区分的多項式の一つであり、最近その有用性が広く認められ多方面に利用されています。もう1冊は洋書ですが書名は「Principles of Engineering」この本は土木工学科5年の工業英語のテキストに使用していますが、他の学科の4・5年の学生にも読んでほしいと思っています。技術の定義・技術者の定義・工学とは何かなど本質的な問題について書かれています。

スプライン関数とその応用

市田浩三・吉本富士市共著
教育出版社

Principles of Engineering

James J. Duderstact, John Uiley

土木工学科 根岸嘉和

緑のヨーロッパ 環境創造への道

神奈川新聞社編 合同出版

昨年本校において御講演された宮脇昭 横浜国大教授を中心とした、第1次・第2次のヨーロッパ自然保護・環境創造現地調査団の報告書であり、欧州各国における、自然環境の保護と育成の理念と現状とが、体験的レポートとして、生々しい筆致でわかりやすく記録され、科学的な考察が平易な表現で述べられている。

都市環境の美学

漆原美代子著 日本放送出版協会

女性建築家である著者が、現代都市の抱える諸問題の視覚環境の側面にメスを入れ、美学的見地から潤いのある都市空間の創造をめざして、人間美富かな美意識の醸成の必要性をうったえた書であり、日本の現状と特質を欧米諸国との比較のうえに分析している。

土木工学科 橋本孝一

幸福論

カール・ヒルティ著 岩波文庫
白水社

著者は、20世紀初頭のスイスの思想家で、弁護士・大学教授・代議士など幅広く活躍した人であり、「幸福論」は極めて実践的な著者である。私は、学生時代から座右の書としている。

大地

パール・バック著

中国の一般民衆の生き方を描いた作品で、「生きる」とはどういうことかについて充分考えさせてくれる。



私はこんな本を読んだ

「友情」を読んで

土木工学科1年 穴沢雅昭

まず、私がこの物語を読んだ感想を書くにあたって、あらすじをかたんに書いておこう。

「脚本家野島と新進作家の大宮は厚い友情で結ばれている。野島は大宮のいとこの友人の杉子を熱愛し、大宮に助力を願うが、かねてから大宮に惹かれていた杉下は野島を拒否しパリに去った大宮に愛の手紙を送る。野島は失恋の苦しみに耐え、仕事の上で大宮と決闘しようとする。」

この物語を読み初めたころは、なにをいっているのかわからなかったのだが、読み進めていくにつれだんだんと、野島と大宮の友情に引きこまれそうになってきた。私には、今までこんな友情にあったことも又味わったこともないように思えて、興奮のうちにページを進めた。最も心ひかれたのは、野島が杉子を熱愛しはじめたことをきき、大宮が、自分の心を押し殺しながら友情をたもとうとし、いとこを通じながら野島と杉子を結びつけようとしたことや、大宮が野島と杉子を結ぶために、杉子にきらわれようとわざと冷淡に接したり、又さげたりした、といったことである。しかし私は、ここで一つのこと気づいた。それは、知らず知らずのうちに、そんな大宮の態度に杉子がひかれていったことである。なぜ神は、こんなことをするのであろうか。これでは、自分の心を押し殺した大宮がかわいそうではないだろうか。友情のため、せかく杉子をわすれて、野島と結ぼうとしたのに、その大宮に杉子が引かれるなんて……。私は、神をにくく思った。しかし、大宮がパリにいったところへ杉子からおくられた愛の手紙を読んでまた、大宮の杉子への手紙を読んで、私は感銘し、どうして神が大宮と杉子を結ぼうとしたかわかった気がした。そしてこの愛こそ友情というものであり、切りさいてはならないものであると思った。そして、事実、大宮と杉子は結ばれたのである。

私はここでもう大宮と野島の友情は、だめになるだろうと思った。しかし、前にも書いたとおり、この2人の友情は、そこらへんにごろごろしている、うそっぱちの友情ではなかったのである。このことがあっても、野島は友情をわすれずに、大宮とはせいせいどうどうと、仕事で決闘しようとしたのである。私は、このちかいを読んだとき、さすがだと思った。私だったらすぐ大宮をはりたおしていたであろう。しかし、

野島は、友情を保ちつつ、くやしい気持ちを仕事の中野島は、友情を保ちつつ、くやしい気持ちを仕事の中ではっさんさせて、仕事で大宮をまかして、杉子をとられた悲しみを忘れようとしたのである。そこが、とても感動的だと思った。

私はこれほどすばらしい友情を知らなかった。こんな友情は現代日本にないからであろう。今の人々は、なんでもかろく考えすぎてはいないだろうか？ 愛・友情・etc これでは今に人と人とのつながり（かたいきずな）などはなくなってしまっただろう。そんなことのないようにこれからは、もっと愛でも友情でも真剣に考えてほしいと思う。そしてもし、それらがわからなくなったらこの「友情」を読んでほしいと思う。

名作「友情」に感動して

土木工学科1年 坂本守浩

私がこの本を読もうとしたきっかけは、推理小説やSF小説などばかりでなく、「名作」と言われているものも、たまには読んでみるべきだと思ったからである。

私は武者小路実篤の友情を読んだので、まず、その作者の武者小路実篤について書くと、彼は、公卿華族の子爵武者小路実世の末子として、明治18年に東京で生まれた。学習院初等科時代は、その志望は「大将」になることだったが、中等科高等科へとすすむにつれて、「アフガニスタンの王様」になることになり、豊臣秀吉やアレクサンダー大王やワシントンに崇拜して、政治家たらんと志すようになる。そういう彼が文学の方へ心向けるにいたったのは、学習院高等科へすすむころに起こった恋愛での苦しい経験と、それとほとんど同時代に読んだトルストイや聖書への感銘などによるものだ。武者小路実篤氏は、「白樺」時代からの僚友志賀直哉が2歳上でまだ健在だが、彼が文壇の最長老であることには変わりない。しかも彼は志賀さんが活動を終えて休火山といった姿であるのに対し、いまなお老いることを忘れたように、小説や感想などに仕者をしのぐさかんな活動をしていられる。

次に、この友情についてのあらすじですが、簡単に書くと「野島」という者が、友人の妹を好きになり、その友人とは別の友達にいろいろと手伝ってもらって恋を突らせようとしたが、友人の妹は、最後には、野島の友達と結婚するようになるという失恋を描いた小説である。

最後に私の感想を述べるが、私は野島が杉子のことを理想のかたまりのように見ているよりは、一般の人と同じように冷静な目で人間的に見てやれば、杉子も野島の方にかたむいたかもしれないと思う。もちろん大宮は、野島よりほとんどの点で勝っているし、野島のために行ってきたことがかえって杉子の心をひいたこともあると思う。でも大宮も杉子の方が好きだったかもしれないが友人のために自分を見失っていたから冷静にふるまえたのかもしれないと思う。野島ももっと冷静にふるまうべきだったと思う。

友情とはそもそも相手とお互いに信頼し合うらぎらないことであるが、この本では、友人をうらぎらないという元来の目的とは違い、最後に結局うらぎるがこのような意外な展開もまたおもしろかったし感動もした。これからもまた「名作」と言われるものを読んで自分を人間的に深めていきたいと思う。

乱読・濫読

工業化学科4年 渡辺知幸

何もすることが無い時、どうするか？ベッドに体を横たえるか、ヘッドホンにでも手をかけるか……私はどうも本に手が出てしまう。さしたる愛書家ともいえぬのだが、ほとんどが勝手気儘に選んだもので、全く脈絡が無く、いつまでたっても「濫読」とは手が切れないようだ。

自分と最初の本の出会いは、安野光雅の「ふしぎなえ」という絵本から始まった気がする。現在、この本が残っているかどうかは判らないが、今考えてみるとこの目の錯角を利用した構成が私をとりこにしたのかもしれない。

次に、自分の読書というものに大きな影響をおよぼしたものは、以前NHKで放送していた「少年ドラマシリーズ」からのほたらきかけではなかったのかと考えられる。当時は全体の半分程がSFジュブナイルにあてられていて、又、SFというものの性格上四角四面にはならない楽しさ故に、それでは原作を読んでもか、ということになり、更に、読書熱というものが昂じたのではないかと考えられる。

一度、禁断の果実を食べてしまうと病みつきになって、その症から容易にはぬけ出せない。例えば、或る作家にこだわったり、又、作品から連想されるものに興味を移したりして読書の範囲が次第に広がって行く。それは例えば、筒井康隆—小松左京—R・カーリン—有吉佐和子—森本哲郎—L・ヴィトゲンシュタイン…のようにである。

ところで、このつながりの意味がわかるだろうか。筒井—小松のラインは、筒井の「日本以外全部沈没」ビブリア 50

を読み小松の「日本沈没」に次、次に小松の作品中の「復活の日」の細菌戦から（一種の環境破壊としてとらえ）「沈黙の春」を、又この現実と日本の状況との対比で、「複合汚染」、又彼女の「私は忘れない」という離島での生活から旅のエッセイでもということでも森本哲郎の「へのへの旅」シリーズをとるようになって行く、そして、最後に森本がよく引用する哲学者にひかれて、「論理哲学論考」を手にとると、全く好き勝手、自由奔放に読みちらかしているわけだ。

この読み方の善悪についてはわからないが、少なくとも、自分にあった読書をしているという点では満足している。

今の若者は（と説教くさくなる）「読書なんか、かったるい」などと言うが、所詮たかが読書であり、自分が楽しめば良く、他のゲームなどと同じではないか。何も形式ばった本を読むのが読書ではない。本がとっつきにくければ、推理小説（例えば赤川次郎）やSF（例えば平井和正）又椎名誠でも良いのではないかと思うのだが。

最後に、価値感について一言。確かに明治期の作家には傑出した人物がたくさんいたが、もう吾々にとっては縁のない人になったのではないか、というのは、彼らの文学は遠大ではあるが、現代の価値観の多様化にはついて来てはいないような気がする。吾々にとってのバイブルとはつまり、赤川次郎であり、新井素子であり、庄司薫だからだ。確かに、これらの作家達は明治期の人たちに比べ気骨が足りない。だが、読者のニーズに答えるという点では申し分のない人達であると考えられる。老人たちは、今の若い者はなどというが（特に日本語を壊しているなどといおる族）明治期の日本での文学的混乱に比すれば、若い人の方が動的ではないかと感ずる。文化というものは、吾々がいない手になっているのであるから、無理解に批判するのは妥当ではないと思う。つまり、人の知脳などは再現のきくものでもなし、吾々には……というものがあって然るべきであると思うが——。などといういろいろ書いたが、要は心を解き放つことであろう。

<読書とは テラ・インコグニタ(未知の世界)をテラ・コグニタ(既知の世界)にするものであるから>

大魔王作戦

ポール アンダーソン作

浅倉久夫訳 ハヤカワ文庫

機械工学科4年 大河内 清一

私の読む本は、だいたいSFと実用書・科学関係の本である。文学作品は、どうも読む気がしない。文学関係で購入したものとえば、芥川龍之介のもので、読んでみても難解でピンとこないのである。文学作品

よりは、やはりSFなどがいい。私が、SF等を好んで読む理由は、何だろう。私の心に、現代の否定という気持ちがあるのか。いや、科学への執着だろうか。いや、ひょっとすると魔法へのあこがれかもしれない。現代の、科学技術の発達した世界に、昔、たとえば、中世時代の人をつれてきたと仮定する。彼は、おそらく現代人を魔法使いだと思うだろう。すごい音とともに、すごいスピードで空を飛ぶ飛行機・馬よりも強い力を持ち、快速で走る自動車、そのほかたくさんもののが、彼をおどろかせる。

前おきはこれくらいにして、本題へ移ろう。この本の特徴はまず、舞台がパラレルワールドであること、この言葉は、平行世界という意味である。それは、3次元の私たちの住む世界と同じような世界が、無数に存在するという考え方で、くわしくは「ボンコツタイ

ムマシン漂流記」だったと思われるが、この題目の本に記してあるので参考までに。次に、ヒーロー、ヒロインが、それぞれ狼男・魔女であるというとりあわせであること。本文の構成が4つで、作者がSF誌に連作として発表したものに、つなぎを書き加えて1つにまとめたものだという事。

一番おもしろい所は、第1話。魔法の科学的分析、それにスリル、そしてユーモア、とにかく読んでみるのが一番良い。空飛ぶ船、ドラゴンの機甲部隊、海軍飼育の海魔（クラーケン）などなど、おもしろいキャラクターが出てくるのだ。

ストーリーも上々。ハッピーエンドが一番だ。今年の夏は「STAR WARS」も完結する。とにかく、さりと読める長編SF小説である。前置きがかなり長かったが、とどのつまりは、この一点である。



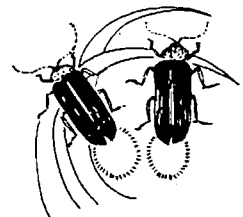
利用者統計

1. 55年～57年度 3カ年学生利用状況

NDC 分類	利用冊数 年度			%		
	55	56	57	55	56	57
総記	781	579	282	6.6	5.0	4.6
哲学	1,222	708	272	10.3	7.0	4.4
歴史・地理	125	156	256	1.0	1.5	4.0
社会科学	175	204	156	1.5	2.0	3.0
自然科学	2,717	2,405	1,416	22.8	23.0	23.0
工学・技術	5,323	4,956	3,181	44.6	48.0	52.0
産業	10	10	2	-	-	-
芸術・体育	70	49	27	0.6	0.5	0.4
語学	264	103	38	2.2	1.0	0.6
文学	1,240	1,222	514	10.4	12.0	8.0
合計	11,927	10,392	6,144	100	100	100

2. 57年度利用概況

開館日数	227日
総入館者	31,892人
1日平均	140人
1日帯出人員	26人
“冊数	27冊



3. 57年度利用人員（科・学年別）

学科	学年					計	%
	1	2	3	4	5		
機 械	126	233	252	518	463	1,592	26
電 気	194	296	486	332	967	2,275	38
化 学	128	295	320	236	271	1,250	21
土 木	85	84	248	269	203	889	15
合 計	533	908	1,306	1,355	1,904	6,006	
%	9	15	22	22	32		100

4. 57年度学年別・分類別利用冊数

分類	1		2		3		4		5		計	%
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総 記	59	11	30	3	83	6.3	47	3.3	63	3	282	4.6
哲 学	102	19	19	2	12	0.9	106	8	33	1.6	272	4.4
歴史・地理	14	3	188	21	21	1.6	16	1	17	0.9	256	4
社会科学	102	19	11	1	11	0.9	14	0.9	18	0.9	156	3
自然科学	119	22	276	30	324	24.8	356	26	341	17	1,416	23
工学・技術	91	17	141	16	738	56.4	776	57	1,435	71	3,181	52
産 業	-	-	-	-	2	0.1	-	-	-	-	2	-
芸術・体育	4	0.7	10	1	10	0.8	1	-	2	-	27	0.4
語 学	7	1.3	2	-	6	0.5	11	0.8	12	0.6	38	0.6
文 学	35	7	231	26	101	7.7	46	3	101	5	514	8
合 計	533	100	908	100	1,308	100	1,373	100	2,022	100	6,144	100

*** *** *** *** ***

57年度春休み（58年3月）利用状況

1. 帯出人員及び冊数

	人 員						冊 数					
	1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5	計
機 械	2	2	3	5		12	2	4	4	7		17
電 気	1	4	4	5		14	2	7	9	12		30
化 学		3		3		6		5		5		10
土 木	2	1	4	4		11	4	1	6	9		20
計	5	10	11	17		43	8	17	19	33		77

2. 分類別人員数

分類 \ 学年	1	2	3	4	5	計
総記				1		1
哲学				1		1
歴史・地理		2				2
社会科学			1	1		2
自然科学	1	10	2	9		22
工学・技術	4	4	15	18		41
産業						
芸術						
語学						
文学	3	1	1	3		8
合計	8	17	19	33		77

3. 帯出者学年・科別

学年	科	分類	総記	哲学	歴史	社会	自然	工・技	産業	芸・体	語学	文学	計
		在籍人	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	M	42						1				1	2
	E	40										2	2
	C	42											
	土	41					1	3					4
	計	165					1	4				3	8
2	M	40					3	1					4
	E	40			2		2	2				1	7
	C	41					5						5
	土	40						1					1
	計	161			2		10	4				1	17
3	M	39						4					4
	E	39					2	6				1	9
	C	37											
	土	39				1		5					6
	計	154				1	2	15				1	19
4	M	43		1				4				2	7
	E	41	1				4	6				1	12
	C	36					5						5
	土	37						8					9
	計	157	1	1			9	18				3	33
5	M												
	E												
	C												
	土												
	計												
総計		637	1	1	2	1	22	41				8	77

新着図書目録

☆印は図書館、他は各教官の研究室に所在するものを分類受人順に記載

総記

朝日新聞縮刷版 昭和57年10月～58年1月号 朝日新聞社☆
 福島民報縮刷版 昭和57年10月～58年1月号 福島民報社☆
 現代用語の基礎知識 特装版1983 自由国民社☆
 読書指導通論 学芸図書社☆
 河北年鑑 昭和58年版 河北新報社☆
 朝日年鑑 昭和58年版別巻 朝日新聞社☆
 昭和58年版 日本写真年鑑 日本写真新聞社☆
 目でみる新金澤風土記 国書刊行会☆
 森有正全集 1～14 補巻 筑摩書房☆
 東山魁夷 泉に聴く 毎日新聞社☆
 湯川秀樹 自己発見 同 ☆
 岩波クラシックス 2 職業としての学問 岩波書店☆
 梅原猛昇著作集 7 哲学の復興 集英社☆
 14 歌の復興 同 ☆
 15 飛鳥とは何か 同 ☆
 19 美と倫理の矛盾 同 ☆
 20 日本学事始 同 ☆
 人類の知的遺産 14 グラスバンドウ 講談社☆
 38 モンテスキュー 同 ☆
 53 ラーマクリシュナ 同 ☆
 57 デュルケム 同 ☆
 東洋文庫 415 甲子夜話三篇 2 平凡社☆
 416 朝鮮の料理書 同 ☆
 417 傘若舞 同 ☆
 418 甲子夜話三篇 3 同 ☆
 419 中国民衆叛乱史 4 同 ☆
 1. See All The World's First Picture Encyclopedia vol. 1～5 名著普及会

哲学

内村鑑三全集 3 1893～1896 岩波書店☆
 同 27, 28 1922～1924 同 ☆
 近代日本哲学思想家辞典 東京書籍
 関牧翁 神の話 朝日新聞社☆
 宮崎英彦 日蓮とその弟子 同 ☆
 石田瑞穂 親鸞とその弟子 同 ☆
 今枝愛貞 蓮元とその弟子 同 ☆
 三谷和彦 生きることと考えること 啓文社☆

橋本峰雄編 思想読本 法然 法蔵館☆
 柳田聖山編 関 道元 同 ☆
 宮坂有勝編 関 空海 同 ☆
 吉本隆明編 関 親鸞 同 ☆
 五十嵐一 知の連鎖 勁草書房☆
 八木誠一 現代にとって宗教とは 日本経済新聞社☆
 R. L. クラッキー 記憶のしくみ 1, 2 サイエンス社☆
 野口定明 孟子を読む 勁草書房☆
 相良亨 本居宣長 東京大学出版会☆
 子安宣邦 伊藤仁斎 同 ☆
 木田元 ハイアガー 20世紀思想家文庫 4 岩波文庫☆
 仏教思想 6 空、上 平楽寺書店
 7 関 下 同
 8 解説 同
 講座現代の心理学 人間の成長 小学館☆
 朱子学大系 4 朱子文集、上 明德出版☆
 岩波クラシックス 7 自省録 岩波書店☆
 9 歌異抄 同 ☆
 11 粟根探 同 ☆
 12 この人を見よ 同 ☆
 15 人生の短さについて 同 ☆
 19 福書書 同 ☆
 世界の思想家 5 ルター 平凡社☆

歴史

国史大辞典 吉川弘文館☆
 現代北朝鮮地名辞典 国書刊行会
 新編東洋史辞典 東京創元社
 空中写真に見る国土の変遷 鹿島出版会
 日本人の自伝 1～23 別巻 1, 2 平凡社☆
 忘れ得ぬ出会い 毎日新聞社☆
 新編西洋史辞典 東京創元社
 京都情報百科 1983年版 京都新聞社☆
 安東伸介他 イギリスの生活と文化事典 研究社
 池田大作 中国の人間革命 毎日新聞社☆
 中村隆英編 現代史を創る人びと 2～4 同 ☆
 木村尚三郎 都市文明の源流 東京大学出版会☆
 中野啓正 都市の自然環境 鹿島研究所出版会☆
 西川幸治 都市の思想 日本放送出版協会☆
 今井ひ志真 都市の発達史 誠文堂新光社☆
 末広恭雄 魚わが友 日本経済新聞社☆
 今西錦司

そこに山がある 日本経済新聞社☆
 早川種三 青春八十年 同 ☆
 J. ベイカー イングランド法制史概説 刑文社☆
 アーノルド・C. ブラックマン 古代への夢 社会思想社☆
 羽仁五郎 父が息子に語る歴史講談 文芸春秋☆
 清水車信 地名研究のすすめ 国書刊行会
 金崎達 ヨーロッパへの偶見 今古堂☆
 江上波夫 アイヌと古代日本 小学館
 中尾佐助他 対論、日本文化の系譜 徳間書店
 明治ニュース事典 1 慶応4年/明治10年 毎日コミュニケーション社☆
 2 明治10年/明治15年 同 ☆
 角川日本地名大辞典 31 取県 角川書店☆
 46 鹿児島県 同 ☆
 岩波クラシックス 10 フランクリン自伝 岩波書店☆
 世界の国シリーズ 16 中国 講談社
 日本歴史地名大系 31 和歌山県の地名 平凡社☆
 図説世界の歴史 1 人類の誕生 小峰書店☆
 2 文明のあけぼの 同 ☆
 3 ギリシアローマの遺産 同 ☆
 4 ささまざまな文明の興亡 同 ☆
 5 むすびつく世界、ヨーロッパ文明の進出 同 ☆
 6 ひとつになる世界、ヨーロッパ文明の偉位 同 ☆
 7 ひとつになる世界、アジア・アフリカのめざめ 同 ☆
 8 危機にたつ人類 同 ☆

社会科学

私は新米教師 毎日新聞社☆
 日本民俗事典 弘文堂
 社会思想事典 中央大学出版部
 わが外交の近況 大蔵省印刷局☆
 六法全書 昭和58年版 Ⅱ 有斐閣☆
 犯罪白書 昭和57年版 大蔵省印刷局☆
 学校屋内運動場の整備指針 プレスギムナステカ 同
 学校屋外運動場の整備指針 同
 日本教育年鑑 昭和58年版 ぎょうせい☆
 青少年白書 大蔵省印刷局☆
 国土庁編 防災白書 昭和57年版 同 ☆
 経済企画庁編 経済白書 昭和57年版 同 ☆
 坪井祥文 福を運んだ日本人 未来社☆
 増田信一 読書感想の指導 学芸図書社☆
 上江洲均 沖縄の暮らしと民衆 慶友社

若林俊輔 これからの英語教師 大修館書店

松原元一 日本数学教育史 1算数編(1) 風間書房

原重一郎編 原教をめぐる人びと 日本放送出版協会
続 同 同 *

ジャックルズールス 2025年全人類の道しるべ 東海大学出版会*

宮本憲一 現代の都市と農村 日本放送出版協会*

吉田光邦 技術文明と宗教 日本経済新聞社*

飯島宗一 日本人とは何か 同 *

合田周平 科学文明の復権 同 *

亀井俊介 アメリカの心、日本の心 同 *

勝田吉太郎 民主主義の幻想 同 *

品田稔 都市の自然史 中央公論社*

榎並公雄 都市の時代 三一書房*

海野弘 都市と神話学 フィルムアート社*

多木浩二 都市の復権・シンポジウム 河出書房*

マンフォード 都市の文化 鹿島出版会*

清水香八郎 都市の魅力 同 *

斎藤栄 都市は崩壊する 三一書房*

望月照彦 都市は未開である 創世記*

加藤秀俊 都市と建築 鹿島出版会*

井上優 都市のアイデンティティ街のアイデンティティ 電通*

枝川公一 都市の歩き方 北斗出版*

清水徹 都市の解剖学 ポーラ文化研究所*

米沢颯 都市の貌 冬樹社*

黒川紀章 都市学入門 祥伝社*

磯村英一 都市学 良得普及会*

ジュレミー・リフキン エントロピーの法則 祥伝社

日本の条件
1 序論 シンポジウム日本の条件 日本放送出版協会*

2 マネー 1変動相場制の時代 同 *

3 同 2オイルマネーの脅威 同 *

4 外交 1国際交渉の華麗な内幕 同 *

5 同 2超大国の不思議な関係 同 *

6 食糧 1穀物争奪の時代 同 *

7 同 2一粒の種子が世界を変える 同 *

8 貿易 同 *

9 医療 同 *

ブルーバックス
519 O A 50の基礎知識 講談社*

自然科学

科学史技術史事典

弘文堂

日本の物理学史 下 資料編 東海大学出版会*

理科年表 昭和58年 丸善*

高速液体クロマトグラフィ分析 産業図書

PAC化学実験を中心とした高校化学 三共出版

科学と技術・これからの5年間 日経サイエンス社

FORTTRANによる数値計算ハンドブック オーム社

日本化学会第47春季年会1983年講演予稿集 1~3 日本化学会

近藤宗平 分子放射線生物学 学生出版センター*

江上信雄 生きものと放射線 東京大学出版会*

M. アイゼンバンド 環境放射能 産業図書*

ヤルモネンコ 放射線生物学の話 東京図書*

J. E. Coggle 放射線の生物作用 共立出版*

長島弘三 高校課程化学 理論編 裳華房*

渡辺格 ライフサイエンスと人間 日本経済新聞社*

熊の輝輝 偏微分方程式 共立出版

マスロフ 摂動論と漸近的方法 岩波書店

池部兎生 数理解の固有値問題 産業図書

亀高惟倫 非線型偏微分方程式 同

中島巖 宇宙から地球を探る 同文書院

宮寺功 線形作用素入門 横書店

杉山昌平 最適問題 共立出版

イェム・ゲリファント 変分法 文一総合出版

岩橋亮輔 最適制御理論入門 サイエンス社

Pecsok 分析化学 第2版 東京化学同人

新良宏一郎 基礎分析化学 三共出版

萩原尊禮 古地震 東京大学出版会

モリソン・ホイド 有機化学 上・中・下 第3版 東京化学同人

A. B. Baker 有機化学問題の解き方 同

J. R. Gerrih 有機化学 同

M. M. スミルノフ 偏微分方程式演習 森北出版

杉山昌平 偏微分方程式例題演習 同

原島鮮 熱学演習一熱力学 裳華房*

坂本正明 くすりの小事典 朝日新聞社*

松坂和夫 代数への出発 岩波書店*

雨宮一郎 微積分への道 同 *

片山孝次 複素数の幾何学 同 *

和田秀男 コンピュータ入門 岩波書店*

F. ゲルテンボス 染色体のしくみとはたらき サイエンス社

坪井忠二他 右と左・対策と非対策の世界 同

中野圭一 マイコン宇宙講座 廣済堂*

小島紀男 パソコンBASIC 数値計算 東海大学出版会*

工藤恵栄 光物性の基礎 オーム社*

金沢季夫 量子力学 朝倉書店*

松本敏三 総合偏微分方程式 現代工学社

津田惟雄 電気伝導性融化物 裳華房

奥野忠一他 多変量解析法 日科技連

続 同 同

ニヤナデンカン 統計的多変量データ解析 同

V. Ja. アルセニン 物理数学 森北出版*

吉弘芳郎 化学分析のしかた考え方 オーム社*

R. A. デイ、Jr 定量分析化学 培風館*

中西浩一郎 溶解度の理論と計算 講談社*

松永義夫 物理化学 三共出版*

荒木綱男 化学標準問題と解説 技報堂出版

野崎一編 ほしいものだけ作る化学 裳華房

小松勇作編 数学要項公式集 廣川書店

平田光徳 パソコンによる数値計算 朝倉書店

安居院猛 F F Tの使い方 産報出版

成瀬洋行 第4紀 岩波書店

新堀友行 第4紀 第2版 共立出版

伊能敬 基礎化学II 旺文社*

T. R. ブレークスリー 右脳革命 プレジデント社*

矢野健太郎 数の世界 日本経済新聞社*

時実利彦 脳を考える 同 *

井本稔 有機反応論 上・下 東京化学同人*

田淵洋 自然環境の生い立ち 朝倉書店*

吉田正敏 世界の気候・日本の気候 同 *

吉田文行 新線形代数 サイエンス社*

新微分積分 同 *

和田秀三 統計入門 同 *

洲之内治男 基礎微分積分 同 *

富樫栄 詳注微分積分演習 山海堂*

多賀保志
理工系のための統計的推論 山海堂
伏見栄次郎
詳注常微分方程式演習 同
廣瀬健 数学の方法 共立出版
井関清志
現代数学 成立と課題 日本評論社
ポントリヤギン 東京図書
梅沢敏夫
やさしい微積分 培風館
高松吉郎
微分方程式とフーリエ級数 朝倉書店
佐々木重吉
詳解微分方程式演習 朝倉書店
E. L. リース
リースのやさしい微分方程式 現代数学社
林 毅 変分法 コロナ社
伏見康治
直交関数系 共立出版
奥野忠一
実験計画法 培風館
J. ハイルボーン
数値計算プログラムBASIC マグロウヒル好学社
田中幸吉
情報工学 朝倉書店
長谷川一郎
天体軌道論 恒星社厚生閣
化学総説
新時代の基幹有機化学工業1982 学生出版センター
飛田満彦
ファインケミカルズ 丸善
基礎物理学選書
9 物性論 裳華房
数学全書
10 変分法 森北出版
応用数学講座
13 変分法 コロナ社
基礎数学シリーズ
変分法入門 朝倉書店
数理解析とその周辺
8 リヤプノフの方法による安定性理論 産業図書
18 最適制御理論 同
23 工学における非線形偏微分方程式 上 同
24 同 下 同
朝永振一郎著作集
3 物理学の周辺 みすず書房
6 開かれた研究所と指導者たち 同
9 マクロの世界からミクロの世界へ 同
ブルーバックス
396 エントロピーとは何か 講談社
492 見てわかる力学 同
510 星座早見検索小図鑑 上 春夏 同
520 青い惑星 地球 同
521 虚構の科学 同
525 実験的園芸植物検索小図鑑 春 同
526 真説木星効果かきなおされた惑星直列理論 同
Philp. M. Morse
Methods of Theoretical Physics Mc Grary - Hill
Larry. L. Schumaker
ヒブリア 50

Spline Functions Basic Theory John Wiley
Claude Brezinski
Pade' - Type Approximation and General Orthogonal Polynomials Birkhäuser
Le Baron O Ferguson
Approximation by Polynomials With Integral Coefficients A M S

工学技術

湖沼環境調査計 公害対策技術同友会
最新機電用語辞典 技術評論社
JSMES 002-1981 統計的疲労試験 日本機械学会
方法 JSMES 003-1982 鋳造品の形状設計 同
JISハンドブック 電気1982 設備工事編 日本規格協会
染色ノート第15版 色染社
昭和57年度電気四学会中国支部第33回連合大会講演論文集 電気四学会中国支部
昭和57年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集 電気関係学会東海支部
最新土木工法事典 産業調査会
水資源のすべて 最新版 昭和57、58年度建設行政資料調査会
騒音振動対策ハンドブック 技報堂出版
材料科学の最近の進歩 オーム社
新版溶接技術入門 産報出版
低周波誘導炉による鋳鉄溶解作業 日刊工業新聞社
入門金属材料と組織 大河出版
新版熱処理技術入門 同
歯車の精度と性能 同
かさ歯車とウォームギヤ 同
円筒歯車の製作 同
潤滑故障例とその対策 養賢堂
振動工学ハンドブック 同
産業用ロボットガイドブック 工業調査会
ボルテージレギュレータハンドブック 誠文堂新光社
最新半導体用語辞典 C Q出版
半導体ハンドブック オーム社
光半導体活用ガイド 誠文堂新光社
半導体デバイス 電気学会
非金属材料データブック 日本規格協会
金属材料データブック 同
高炉スラグ細骨材を用いたコンクリートの設計施工指針(案) 土木学会
近代土木技術の黎明期 同
軽水炉の安全性 講談社
エネルギーと環境 丸善
応用電気音書 コロナ社
都市空間の回復 学陽書房
自動車工学 日刊工業新聞社
ベルト伝動技術 近代編集社
カラー版図解半導体ガイド 誠文堂新光社
基礎電子工学 電気学会
図説土木用語辞典 実教出版
円筒歯車の設計 歯車の設計製作1 大河出版
リニアオペアンプデータブック 誠文堂新光社
最新オペアンプ活用技術 同

電子管工学1 第2巻 コロナ社
同 3 第4巻 同
サイリスタ応用100問100答 誠文堂新光社
図解物用語辞典 日刊工業新聞社
科学技術白書 昭和57年版 大蔵省印刷局
原子力白書 昭和57年版 同
沿岸域計画思考入門 日本港湾協会
開削トンネル指針に基づいた開削トンネル設計計算例 土木学会
鋼構造架設施工指針 同
アスファルト混合物の知識 技報堂出版
プリント配線回路(工業英語別冊) インタープレス
非鉄関係 JIS要覧1、2 新日本法規出版
最新FET電界効果トランジスタ規格表82' C Q出版
村瀬康治
実習CP/M アスキー出版
戸川隼人
マイコンによる有限要素解析 培風館
塚本哲男
デジタル兼用回路デザインの活用 オーム社
河野重勝
安定化電源回路の設計法 産報出版
蒲生良治
アナログ回路のトラブル対策 C Q出版
マイコン用計測回路とそのインターフェース 同
白石肇 電源IC応用技術読本 オーム社
岡村迪夫
標準デジタルバス(IEEE-488)とその応用 同
戸川隼人
マイコンによる有限要素解析 培風館
矢野晴一郎
マイコングラフィックス入門 工学図書
杉田毅
マイコンによる機械制御技術 日刊工業新聞社
工藤文彦他
PC-8801グラフィックスのすべて アスキー出版
竹村伸一
パソコングラフィックアート オーム社
日本金属学会編
金属便覧 丸善
宗 孝 一歩先をいく機械材料えらび 技術評論社
Lorry. J. Segerling
応用有限要素解析 丸善
藤田肇一
非線形問題 コロナ社
三好俊郎
有限要素法 実教出版
有限要素法入門 培風館
G. ストラング
有限要素法の理論 同
同 実際 サイエンス社
戸川隼人
有限要素法へのガイド 同
菊地文雄
有限要素法概説 同
C. A. プレビア
有限要素法の基本と応用 ブレイン図書
三好俊郎
演習有限要素法 サイエンス社
片桐重延
問題解決の手順流れ図

大江修造 工業化学系のためのマイコン BASIC の手引き 日刊工業新聞社
藤原君忠 マイコンとマイコンをつなぐ法 日本実業出版社
遠峰達郎 テレビジョン受像機 啓学出版
奈良裕司 初等トランジスタ TV 教科書 オーム社
西永頌 電子アバイスプロセス コロナ社
野澤繁之 必修 TK-85 で学ぶマイコン制御とアセンブラ入門 技術評論社
いますぐ使えるセンサの動きと最適利用 同
竹内芳美 パソコンによる実機機械の計測と制御 工業調査会
藤本正也 エレクトロニクスにおける信頼性 電子通信学会
今井聖 ティジタル信号処理 産報出版
岡村油夫 続 OP アンプ回路の設計 CQ 出版社
改訂 OP アンプ回路の設計 同
加川幸雄 有限要素法による振動音響工学基礎と応用 培風館
江藤祐春 溶接講座溶接の現場技術 東京電機大学出版局
中川威雄 薄板のプレス加工 実教出版
谷下市松 工学基礎熱力学 裳華房
中山秀太郎 材料学入門 大河出版
加藤一郎 図解メカニカルハンド 工業調査会
木下源一郎 ロボット技術への挑戦 同
西野竜 マイコン+センサ活用入門 工学図書
大久保陽一 機械に知力をつける制御用マイコン・初歩から応用 日刊工業新聞社
古屋喜正 改訂新版流体力学 朝倉書店
佐藤俊雄 油圧サーボ制御の設計 大河出版
油圧装置設計の実例 同
大和久重雄 JIS 感測材料入門 同
本山盛太郎 調剤品のトラブル対策 同
宗孝 実用機械設計法 日刊工業新聞社
E. P. ボポフ 固体の力学 1, 2 培風館
長真引 N ゲージ鉄道模型 日本放送出版協会
中村文政 ラジコンプラモデル 同
増永清一 模型用モーターを使った工作 同
三井康亘 アクリルロボットの工作 同
白土義男

デジタル IC のいたずら 日本放送出版協会
三井康亘 アクリルモーター力の工作 同
佐々木彬夫 F-BASIC を使いこなす 工学図書
貞野国昭 FM-8 システムアーキテクチャーとプログラミング技術 共立出版
前川純一 誰にもわかる騒音防止ガイドブック 同
八田桂三 熱機関概論 養賢堂
小町弘 内燃機関 パワー社
大久保義雄 燃料噴射装置入門 山海堂
横越光広 わが青春の名車たち 同
谷下市松 工業熱力学・基礎編 同
ロバート・E. パー 機械の設計原理 産業図書
中山恒 エネルギー工学のための熱交換技術入門 オーム社
村岡周平 マイコン手づくり塾 廣済堂
吉村十一郎 機械制御のコンピュータ入門 技術評論社
北川一雄 制御用マイコンの作り方 同
今木清康 流体機械工学 コロナ社
酒井喜雄 精解演習半導体工学 廣川書店
当麻喜弘 バルス技術入門 丸善
三宅康友 バルス回路 朝倉書店
藤井信生 演算増幅器回路の設計 産報出版
清水和男 アートワークの技法 CQ 出版
Dakin Cooke デジタル装置の電子回路 上 近代科学社
清水賢資 デジタル情報回路 森北出版
ビブラ デジタルアナログシステム回路デバイス入門 マグロウヒル社
飯田隆彦 半導体 IC 用辞書 オーム社
一木吉典 全日本真空管マニュアル ラジオ技術社
マッキンレー・C. オルソン われわれは原発と共存できるか 講談社
A. D. ジモン 放射能汚染と除染の物理化学 現代光学社
深井祐造 解説原子力発電 東京電機大学出版局
兵藤和典 放射線遮蔽入門 産業図書
浜島深 機械製図の実例 理工図書
岡本定次 工作機械の構成 内田老鶴園社
黒川紀章 都市の思想 白馬出版
山田学 都市の博物館 彰国社

L. ヒルベルザイマー 都市の本質 彰国社
リンチ 都市のイメージ 岩波書店
A&P. スミッソン 都市の構造 美術出版
富田幸雄 工学のための数理解析 1-3 実教出版
化学工学協会編 経済評価とプラントコスト 丸善
化学プラント建設技術 上・中・下 同
小野木重治 レオロジー要論 朝倉書店
後藤猛 やさしく美しいコンピュータパピコン NEC PC-6001 プログラミング教本 廣済堂
佐藤直人 PC-8001 マシン語活用ハンドブック・中級編 和秀システムトレーニング
北山直方 図解伝熱工学の学び方 オーム社
菅野友信 ダイガスト技術入門 日刊工業新聞社
A. Kelly 複合材料 丸善
浜住松二郎 非鉄金属および合金 内田老鶴園社
兵藤務他 熱力学 パワー社
山脇与平 技術論と技術教育 青木書店
千々岩健児 機械製作法通論 上・下 東京大学出版会
菅野玄之助 内燃機関工学概論 理工学社
長真引 鉄道模型レイアウト 日本放送出版協会
伊藤佳考 ラジコン飛行機入門 同
稲葉保 IC を使った電子工作 同
中村文政 ラジコンボートヨット入門 同
酒井栄一 ラジコンヘリコプター入門 同
前田芳雄 電子おもちゃの作り方 同
野中繁吉 ライトブレンを飛ばそう 同
中原紀 IC の応用と実例 同
杉田隆 かならずわかるエレクトロニクス 工学図書
土屋金弥 電気接点技術 総合電子出版
河合四郎 トランジスタ回路の解説 東海大学出版会
稲場文男 レーザ工学 東京電機大学出版局
阿座上孝 現代レーザ工学 オーム社
Aldert Van Der Ziel 固体電子工学 上・下 近代科学社
藤田献 電子計算機のシステムエンジニアリング 産報出版
片岡啓介 初歩者のためのトランジスタの使い方 オーム社
大河内正嗣 基礎電子計算機 実教出版
山賀威 オペレーショナルアンプ応用技術読本 彰国社

守本佑作 オーム社
直流安定化電源の基礎知識 同 *

石橋浩司 デジタルカウンタの作り方便い方 同 *

山田泰三 入門パルスティジタル回路 同 *

橋本順次 論理回路入門 日利工業新聞社
安定化電源回路の実験 産報出版
米山正雄 パルスとデジタル回路 東海大学出版会
山本外史 パルスとデジタル回路 理工学社
早田保実 パルス電子回路 日新出版
清水俊之 電子管工学 東海大学出版会
中村新太郎 電子素子工学 実教出版
安保昭 のり面緑化工法 森北出版
吉良八郎 ダムの堆砂とその防除 同
飯吉精一 地盤の歪削 技報堂出版
小谷昇 コンクリートの知識 同
泉満明 コンクリート構造物の配筋とその詳細 同
環境庁編 環境白書 昭和57年版 大蔵省印刷局
香月和男 先生のためのマイコン教室 オーム社
樽石正隆 解説と演習、電子回路1 コロナ社
高橋寛 回路の合成 同
猪狩因夫 パルス回路の設計 CQ出版社
山本外史 精解演習デジタル回路 廣川書店
菅野卓雄 半導体プラズマプロセス技術 廣川書店
大石嘉雄 半導体物性1—基礎物性 朝倉書店
同 2—素子と物性 同
伊藤糾次 結晶成長 コロナ社
柳沢健 フィルタの理論と設計 産報出版
高橋清 センサ技術新時代 工業調査会
小津厚二郎 サイリスタの応用 産報出版
奥沢清吉 はじめてデジタルICを使う本 誠文堂新光社
染宮茂吉 マイコンコンピュータのシステムデザイン 日利工業新聞社
北川一雄 デジタルIC実験と工作マニュアル オーム社
大原儀作 電気材料および部品 朝倉書店
北川明 絵で見るレーザ 誠文堂新光社
平山博 電子通信英和和英辞典 共立出版
松本欣二他 コンピュータエレクトロニクス用語辞典 丸善
工藤文彦 ビブリア 50

PC-8001 BASIC 入門 アスキー出版局
野田明彦他 FUJITSU・MICRO 8 機械語教本 F-BIOSの使い方 センチュリープランニング
河村三郎 土砂水理学1 森北出版
押田勇雄編 都市の水循環 日本放送出版協会
末田秀夫 化学工業入門 共立出版
柳田博明 ファインセラミックス オーム社
笹木和雄 電子材料の化学 丸善
阿部博之 機械工学のためのコンピュータの応用 森北出版
堀幸夫 新編 JIS 機械製図 同
岩浪繁蔵 パッキン技術便覧 産業図書
大久保正夫 JIS 機械製図法 朝倉書店
西岡隆 わかりやすい材料力学 鹿島出版
梶原和敏 柱列式地下連続壁工法 同
小橋澄治 斜面緑化 同
山内博 土木技術者のためのマイコン入門 近代図書
P. リーコ プレストレストコンクリート 基礎編 鹿島出版
応用編 鹿島出版
三木幸藏 面でみる基礎設計のための知識 基礎・地盤編 同
面でみる基礎設計のための調査・判定編 設計編 同
中条美明 マイコンによるデータ整理 培風館
泉亮太郎 工学基礎熱および熱機関 共立出版
竹中俊夫他 機械工学必携 朝倉書店
塚本正文 BASIC 数値計算と図形処理 森北出版
機械工学講座 17 熱力学 共立出版
最新機械工学シリーズ 6 水力学 森北出版
数学ライブラリー 38 有限要素法とその応用 同
音響工学講座 5 騒音振動 下 コロナ社
土木工学大系 1 土木工学概説 彰文社
標準電気工学講座 11 電子管工学 コロナ社
機械工学基礎講座 7 流体機械 朝倉書店
測量設計技術全書 新版写真測量 山海堂
土地改良事業施設の調査計画 同
ブルーバックス 517 ファインセラミックス 講談社
523 シミュレーションの発想 同
524 コンピュータ時代の基礎知識 同 *

測量設計技術全書 新版写真測量 山海堂
土地改良事業施設の調査計画 同
測量のための実用数学 同
港湾海岸海洋土木構造物の測量設計 同
土質を考慮に入れた道路土工の測量設計 同
基準点測量 同
国土調査手法 同
地図編集および製図 同
リモートセンシングによる測量設計 同
河川ダム施設構造物 同
治山施設構造物 同
改訂新版測量学概論 同
土地画整理測量の実務 同
道路一線形の測量設計 同
応用測量 同
環境計測と測量設計 同
下水道施設構造物 同
道路測量の手法 同
道路構造物の測量設計 同
都市計画付帯構造物 同
測量計算マニュアル 同
地形測量 同
公共測量の計算処理方法 同
河川発電水力計画に伴う測量設計 同
測量のための最小2乗法 同
地籍測量1 登記測量 同
同 2 不動産表示登記 同
同 3 同 同
別巻1 測量設計データハンドブック 同
同 2 測量機器便覧 同
同 3 測量設計機器資料集 同
土木測量設計施工技術者のための工事出来形管理のチェックポイント 同
Personal Computer MZ-1200 Basic Manual シェアブ
PC-8001 Basic Source Program Listings The Whole Analysis of Ver IO & II 秀和システムレーシング
Peter Pawlik Elastokinetics West
James. G. Seebola Inter-Noise 82' Noise Control Foundation

産 業

産業資源 資料問題研究会
通商白書 昭和57年版 大蔵省印刷局
運輸白書 昭和57年版 同
国土庁 国土利用白書 昭和57年版 同
W. シベルブシュ 鉄道旅行の歴史 法政大学出版局
ジャン・ルージェ 古代の船と航海 同
小泉現義勝 秤 同

芸 術

日本スキー指導教本 スキージャーナル
スキー実力豊生講座 上・下 同
機方志功

わだばゴッホになる 佐藤忠良作品集	日本経済新聞社
大きな帽子	現代美術社
佐藤忠良自選素描集	
旅の走り書き	同
アトリエの中から	同
The Sculpture of 佐藤忠良	現代彫刻センター
書の講座	
3 書の意匠	角川書店
日本水彩画名作全集	
7 名作選II 大正	第一法規
日本古寺美術全集	
6 西大寺と奈良の古寺	集英社
18 北陸・信濃・東海の名寺	同
坂本繁二郎	
私の絵私のところ	日本経済新聞社
岩波クラシックス	
18 日本の唱歌集	岩波書店
20世紀思想家文庫	
3 エイゼンシュテイン	同
5 ピカソ	同

語 学

新英和大辞典	研究社
会話作文英語表現辞典	朝日出版社
日英故事ことわざ辞典	朝日イブニングニュース社
最新英語情報辞典	小学館
電子計算機による英語教科書の使用語彙総覧1982 中学校編	淡水社
新英語論文の手引	北星堂
徳比俊彦	
新稿フランス語四週間	大学書林
松本環 英語四週間	同
森保郎 ドイツ語四週間	同
G. ヘルビヒ	
現代ドイツ文法	三修社
小川芳男	
巻の英語	大学書林
Kate Turabian	
英語論文の書き方	研究社
香坂頼一	
現代中国語辞典	先生館
新村出編	
広辞苑 第二版補訂版	岩波書店
トム・バーナム	
英語雑学辞典	研究社
坂下昇 現代米語コーパス辞典	講談社
岡弘正雄	

アメリカ英語の常識 地理編 上	朝日イブニングニュース社
杉田敏 アメリカンユーモアの構造	同
前田滋 逆算式討議法 プレーンダイナミックス	
大塚高信編	
カレッジクラウン英和辞典	三省堂
橋本道彦	
和製英語を正す	朝日イブニングニュース社
松本道弘	
タイムエッセー	同
英語を学ぶ	同
読英語を学ぶ	同
英語で迫る	同
ホンモノに迫る英語	同
新れる英語	朝日イブニングニュース社
最新ファミ編	
現代アメリカ語辞典	日本翻訳家養成センター
オックスフォードカラー英和大辞典1~8	福武書店
20世紀思想家文庫	
2 チョムスキー	岩波書店
W. R. Lee	
Language Teaching Games and Consts	Oxford

文 学

王政復古の英文学	金星堂
芥川賞全集2	文芸春秋
モーリヤック著作集1~3	春秋社
水上勉 京都漫歩	平凡社
西郷信綱	
源子物語を読むために	同
早見淳 時と共に	毎日新聞社
木下順二	
歴史について	同
川端康成	
一草一花	同
谷川徹三	
人間であること	同
福原順太郎	
天才について	同
井伏鱒二	
人と人影	同
遠藤周作	
周作快談	同
アンリ・トロワイヤ	
ドストエフスキー伝	中央公論社

新潮日本古典集成	新潮社
古事記	同
萬葉集1~3	同
竹取物語	同
伊勢物語	同
古今和歌集	同
落窪物語	同
枕草子 上・下	同
和泉式部日記 和泉式部集	同
源氏物語1~5	同
更級日記	同
今昔物語 本朝世俗部1~3	同
梁塵秘抄	同
無名草子	同
新古今和歌集 上・下	同
方丈記発心集	同
平家物語 上・中	同
金槐和歌集	同
建礼門院右京大夫集	同
徒然草	同
太平記1、2	同
日本永代蔵	同
芭蕉文集	同
兩月物語・兼壽談	同
與謝蕪村集	同
ロンロン全集	
12 戯曲IV 敗れし人々 モンテスパン夫人 リリユリ 機械の反抗 三人の恋する女	みすず書房
20 芸術研究1 近代音楽の起源 ミケランジェロ 16世紀イタリア 絵画の凋落	みすず書房
20世紀思想家文庫	
1 トーマスマン	岩波書店
中国古典紀行	
2 唐詩の旅	講談社
5 史記の旅	同
岩波クラシックス	
1 北越雪隠	岩波書店
3 アルプス登攀記 上	同
4 同 下	同
5 ガリヴァー旅行記	同
14 オイティプス王	同
16 百人一首一夕話 上	同
17 同 下	同
The Conversion of John Donne	
米国学位論文サービスセンター	
John Donne's Religious Development	同
John Donne's Defense of The Chorch of England	同

当館のあゆみ

58.3. 4 春休み特別貸出し

58.5.26 第1回図書委員会

1. 昭和58年度図書館活動について
2. ビブリア編集案

58.6.30 第2回図書委員会

1. 図書購入費配分案について
2. 研究紀要原稿募集について

今年度の顔振れ

I 図書委員会(兼)視聴覚教育委員会

館長	芋川平一	(一般教科)
○副館長	山崎数彦	(電気工学科)
委員	中村好一	(一般教科)
"	佐藤憲男	(機械工学科)
"	青柳克弘	(工業化学科)
"	土居威男	(土木工学科)
"	篠岡修治	(事務部長)
"	佐藤安宏	(庶務課長)
"	加藤勇	(図書係長)

○視聴覚主任

II 図書係

係長	加藤勇	
係員	大谷敦子	(整理担当)
"	大久保フミ	(閲覧担当)
"	山野辺憲子	(受入担当)

III 学生図書委員

科 学年	M	E	C	土
1	吉田光生	木幡仁	水野久美子	長赤 浜津ミホ子
2	小金池次雄 成守康	鈴木俊治	井波アリサ	大平正
3	坂本秀樹	○斉藤昌仁 鈴木康寛	折笠光代	武田富士雄
4	柿沢哲也	鈴木啓修	西郡利夫 石崎文彦	高木正一 ○鈴木展之
5	鈴木健吾	宍戸博	鯨岡信之	渡今刃井賢 宏一

◎委員長

○副委員長